

厳しい残暑も過ぎ去り、秋の涼しさを感じはじめたと思いきや、冷たい風が吹き始め、すでに冬を思わせるような季節になってきました。

さて、今号の乙貞では、8月に実施した下之郷遺跡の調査成果と、10月末に開始した古高城遺跡の調査の中間報告をしたいと思います。

加えて、秋の文化財シーズンでイベント盛りだくさんでお送りしている埋文センターの秋の催し物について紹介したいと思います。



● 発掘調査成果 ●

(1) 下之郷遺跡発掘調査(第2調査区=81次、第1・3調査区=83次)

前号で紹介した下之郷遺跡の確認調査を実施した地点で、8月1日から9月14日にかけて、宅地造成に伴い擁壁部分と下水道部分の発掘調査を実施しました。

まず第2調査区では、溝や落ち込み状の遺構を確認しました。落ち込み状の遺構は、土層の堆積状況や遺構の形状から自然流路の可能性が考えられます。第2調査区の遺構からは時期を特定できる遺物は出土しませんでした。

第1・3調査区では、弥生時代中期後半の土坑や多数のピット、そして環濠の一部を調査しました。土坑の中には、直径1.2m、深さ90cmを測るものや、直径1.5m、深さ1.3mを測る井戸跡と考えられる遺構を発見しており、周辺の状況とあわせて、下之郷遺跡に展開する集落の構造を考える上で非常に重

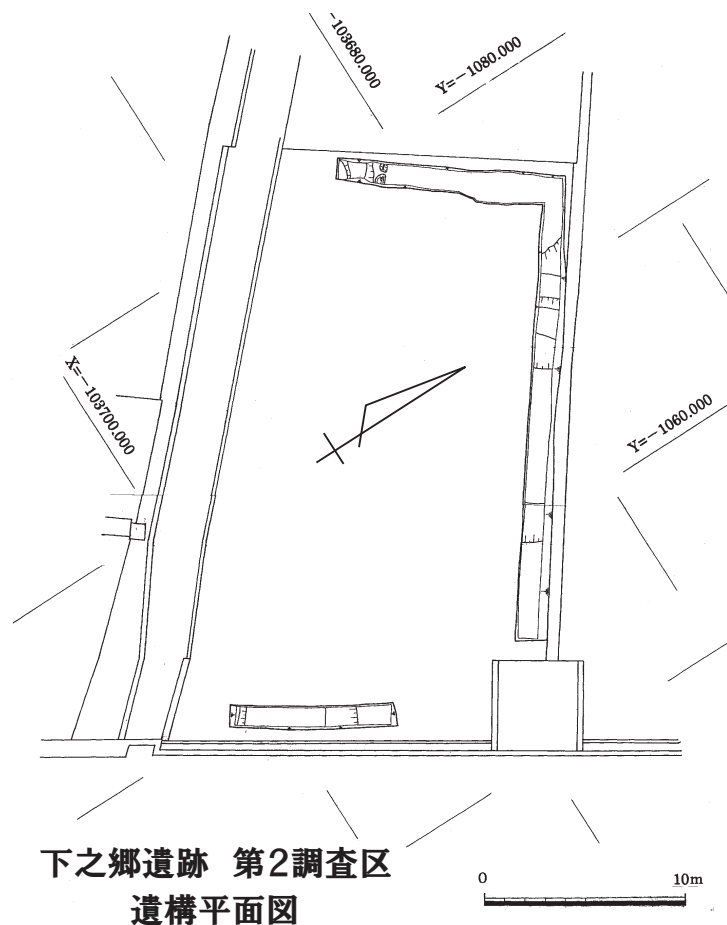


第1調査区 トレンチ1

要な資料となるでしょう。環濠の調査では、トレンチ5で第1～3環濠を、遺構面から深さ約1.3mまで掘削しました。これまでの環濠の調査と比較して、遺物はあまり出土しませんでした。第3環濠からは「椅子」の可能性のある木製品が出土したほか、第1環濠からは「磨製石斧」が出土しています。トレンチ6では、第1環濠を掘削しました。深さ約60cmまでの掘削でしたが、弥生土器がまとまって出土しています。トレンチ7は第3環濠にあたる部分でしたが、弥生土器や木製品、石器が出土しています。

今回の調査は、工事によって地下の遺構が破壊される部分のみの調査で、前回確認調査を実施した地点の外縁部分、幅1m程の掘削であったことから、成果は非常に限られたものになっています。しかし、国史跡の範囲外とはいえ、その縁辺部を発掘調査した数少ない事例であることから、今後周辺の調査状況と合わせて検討することによって、下之郷遺跡の集落構造の一端が明らかになると思われます。

(平井)



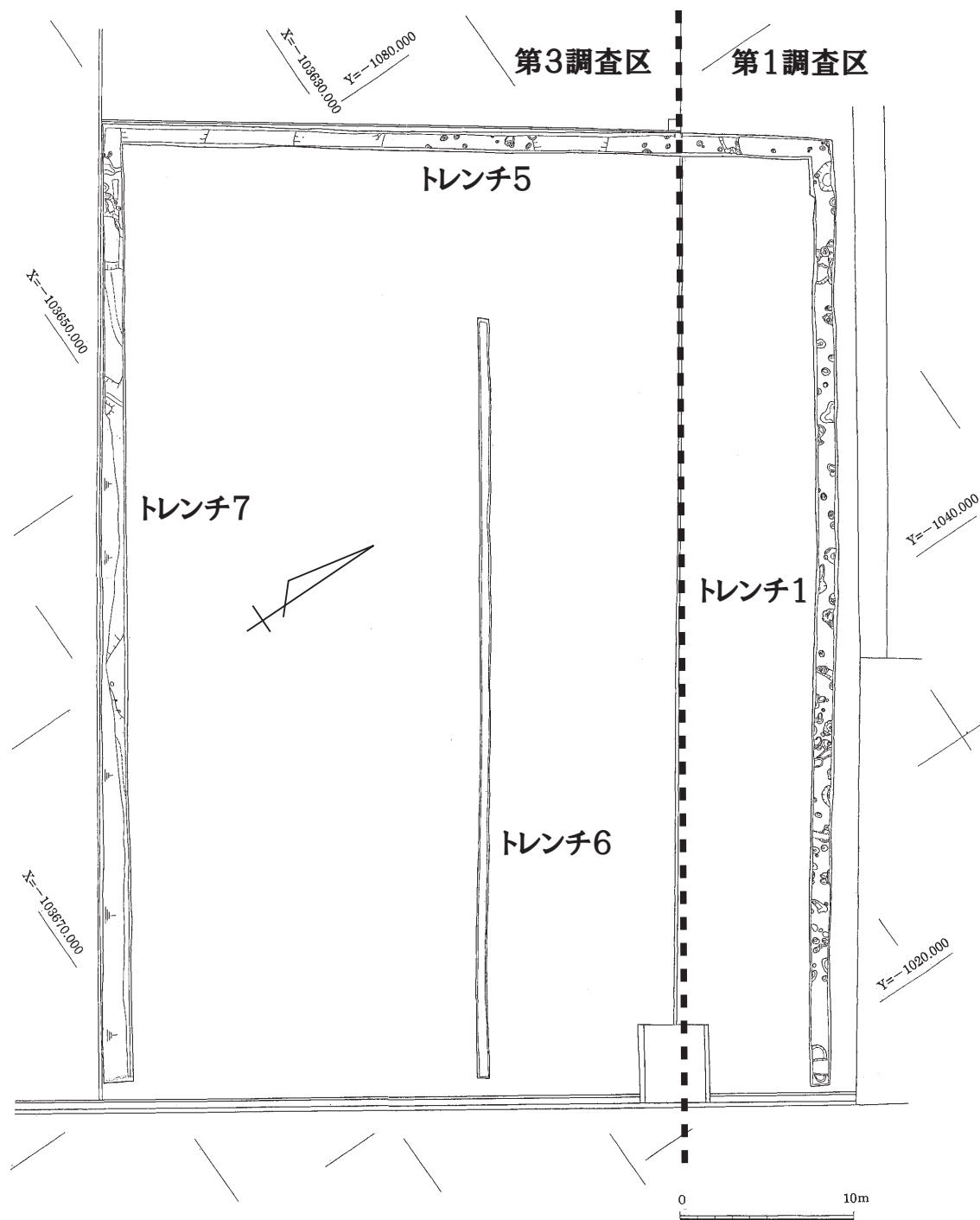
第1・3調査区 トレンチ5



第2調査区 北西部



第3調査区 トレンチ7



下之郷遺跡 第1・3調査区遺構平面図

(2) 古高城遺跡第 15 次調査

焰魔堂町字円前地先において、宅地造成工事に伴い約 520 m²を対象に、10 月 26 日から発掘調査を実施しています。今回の調査地の隣接地点では、今年の 1 月に発掘調査を実施しており（焰魔堂遺跡『乙貞 175 号』）、その際に平安時代の建物跡が計 5 棟発見され、その時期の集落が付近に展開していたことがわかっています。よって、今回の調査ではその集落の続きが見つかることが想定されていました。

発掘調査の結果、多数のピット群を検出し、それらの多くは「掘立柱建物」を構成する柱穴であることがわかりました。出土した土器から、10 世紀から 11 世紀の建物跡と考えられます。現在までに、それとほぼ同時期のものと推測される建物跡を 6 棟確認しています。現在も調査は継続中で、今後の進捗により新たに建物跡が見つかる可能性があります。その詳細は、次号で紹介したいと思います。（木下）



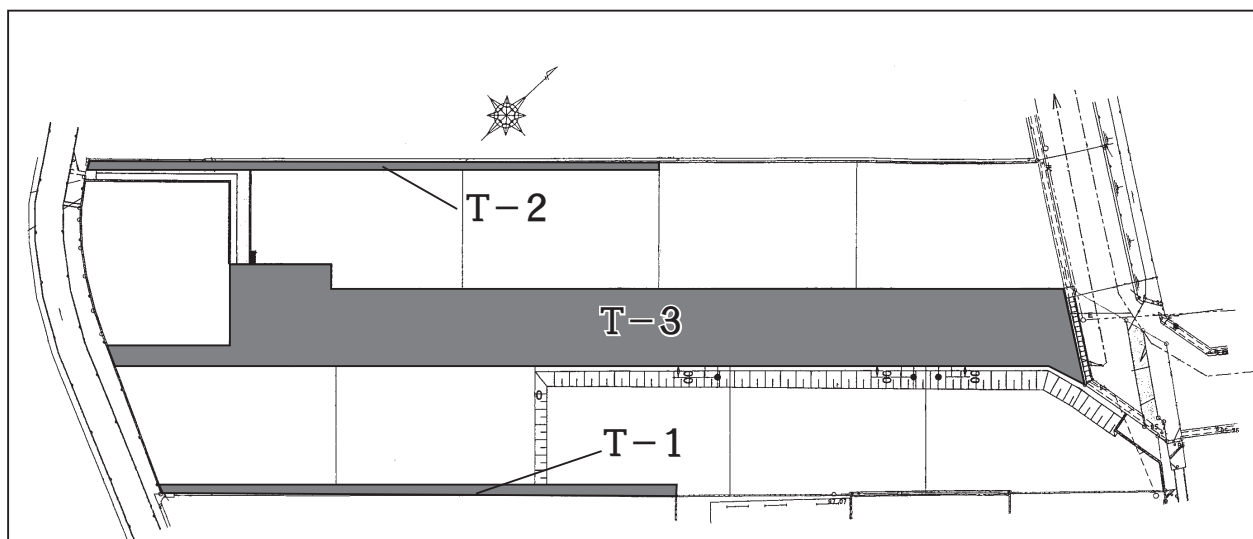
T-1 遺構検出状況



T-3 掘立柱建物①



T-3 掘立柱建物②



古高城遺跡 調査区配置図

● 秋の穂刈り体験 ●

10月24日（月）に、中洲幼稚園の園児20名が埤文センターに訪れ、“秋の穂刈り体験”を実施しました。

埤文センターの“体験学習田”では、今年の5月に、同園の園児たちが田植え体験を行いました。そこで、以前田植えをしてくれた園児達に“穂刈り”も体験してもらおうと企画したのです。



穂刈りを終えた後は、実際に刈った穂を足踏脱穀機あしふみだっくきによって脱穀し、唐箕とうみによって穂を選別するという、昔ながらの作業を行い、お米が出来るまでの工程を見学してもらいました。園児達の多くが、興味を持って楽しそうに体験してくれたのがとても印象的でした。

● 秋の体験学習 “縄文ペンダントづくり” ●

11月3日（木・祝）、20日（日）には、秋の特別展恒例の体験学習「縄文ペンダントづくり」を開催しました。これは、縄文時代の遺跡から出土する“装身具”そうしんぐを作ってみようという企画で、参加者は、粘土を使って、実際の装身具を模倣したり、または思い思いの形にしてペンダントを作り上げ、焼き上げるまでの過程を体験してもらいました。焼成もうまくいき、この世にふたつとない素敵なペンダントがたくさん出来上がりました。



● 埋文センター 秋の特別展 『野洲川流域の縄文遺跡』 ●

10月29日（土）から11月23日（水・祝）にかけて、埋文センター秋の特別展を開催いたしました。今年度のテーマは『**野洲川流域の縄文遺跡**』で、^{はっとり}服部遺跡、^{いせ}下之郷遺跡、伊勢遺跡など全国的に注目される弥生時代の遺跡が多く見つかっている野洲川流域において、その前段階の時代はどのようなものだったのかを多くの遺物を交えて紹介しました。

期間中には、服部遺跡から出土した、かつての水のまつりの痕跡である『**導水施設**』^{どうすいしせつ}（古墳時代前期）を展示し、全国でも数例しか見られない遺物に多くの人が魅入っていました。

また、展示フロアの一画で『**小菊盆栽展**』を同時に開催しました。美しい菊と、その香りに包まれ、普段とは違った趣で展示を楽しんでおられる来館者も多くおられました。



● 埋文センター友の会 活動報告 ●

埋文センター友の会では、現在年に3回の県内研修と、年に2回の県外研修を実施しています。去る9月28日（水）には、福井県の『**一乗谷朝倉氏遺跡**』^{いちじょうだにあさくらしいせき}を中心とした見学会を開催しました。一乗谷朝倉氏遺跡では、発掘調査によって把握された戦国時代の城下町が復元されています。特に現在は、NHKで放映されている大河ドラマ「**お江**」にも関連する地域ということもあり、多くの観光客であふれていました。友の会では、今後も会員のみなさんからの提案をもとに、楽しい見学会を企画していきたいと思っています。



朝倉館跡 唐門前の見学風景

機関紙「乙貞」は守山市のホームページ（<http://www.city.moriyama.lg.jp>）からも閲覧できます。